

外務大臣科学技術顧問のこれまでの活動と今後の方向性(作業部会報告書のポイント)

1 背景・趣旨

- 平成27年9月、外務大臣科学技術顧問(外務省参与)を任命(※)。1年半余りにわたり活動(※我が国初の試み)
- 科学技術外交推進会議の下で、科学技術顧問のこれまでの活動と今後の方向性に関し討議する作業部会を開催

2 顧問の活動実績と今後の方向性・課題

★(1) 各種外交政策への科学的知見に基づく助言・提言

【実績】大型外交機会(G7サミット, TICAD VI, SDGs)に向けた助言・提言, 省内各部署への相談・助言

【方向性・課題】2019年に予定されるSDGs首脳級レビューやTICAD7, 各国・地域との関係等を念頭に、不透明性を増す国際情勢に対応する戦略的な外交を展開する上で、グローバル課題に対する主導力を発揮

★(2) 国内外のネットワークの強化, 人材育成

【実績】推進会議及びスタディ・グループの仕組みを通じた国内連携の進展, 諸外国の科学技術顧問等とのネットワーク確立

【方向性・課題】科学技術顧問間の対話を通じた国際アジェンダ形成・国際的議論の主導, 科学技術外交を担う若手人材の育成, 総合科学技術イノベーション会議(CSTI)や日本学術会議等との連携

★(3) 積極的な対外発信

【実績】各種国際フォーラムやメディアを通じた科学技術外交の発信, 科学技術イノベーションの対外発信(「SIPキャラバン」)

【方向性・課題】ジャパン・ハウスや在外公館の機能の一層の活用, 国内での科学技術外交の認知度向上・若手人材の育成

3 顧問の活動を支える取組

(1) 情報活用・関係者との連携

【実績】国・地域毎の情報を整理・分析する「マッピング」, 在外公館の科学技術担当官との連携・活用

【方向性・課題】我が国に駐在する各国大使館の科学技術アタッシュとの結びつき

(2) 外務省内での人材育成, コミュニケーション等

【実績】省員の知見向上のための「科学技術外交セミナー」開催, ハイレベル(政務・幹部職員)との面談等

【方向性・課題】科学技術面での知見の具体的外交活動への一層の反映

4 顧問職の今後

■顧問の下での推進会議を中核とした科学的助言体制は有効に機能し、科学技術外交の前進がみとめられる(国際社会, 国内科学技術関係方面, 外務省内のそれぞれにおいて高い期待と貢献)

■今後も顧問を継続的に任命し、科学技術外交を引き続き推進していくべき(そのための留意点として、以下を指摘)

(1) 求められる資質: 糾合力, 公平性, 人脈・人望, 科学者としての高い評価, 中立・客観的な「助言者」の役割, 国際経験

(2) 勤務体制: 顧問の安定的・継続的活動には数年単位の取組が必要

(3) 十分な体制確保の必要性: 推進会議を始めとする補佐体制の活動基盤強化, 適当な有識者の顧問の代理指名の可能性

5 総括

■外務大臣科学技術顧問を通じた外交への科学的助言体制構築は、日本外交に新たな特色を創出

■科学技術を通じ国際社会に貢献するとのメッセージを明確にすることは、我が国のソフトパワーを高める

➡外務大臣科学技術顧問は、今後とも上記3つの取組(★)を柱として科学技術外交を継続的に推進していくべき